

個別施策

- D5-1 環境教育・学習を推進します
- D5-2 環境行動を促します

ア 施策の目的

市民・事業者・行政等、すべての主体が、自ら環境について学び、あらゆる場所で環境行動を実践している

イ 基本施策の評価

A d 目標を達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3
環境保全団体 メンバー数※	27,275人 (26年度)	↑ 目標値	42,000	44,000	46,000	48,000	50,000	52,000
		↓ 実績値	45,310	53,513	57,323	58,770	59,283	58,669
		↓ 達成率	107.9%	121.6%	124.6%	122.4%	118.6%	112.8%

※ 市民ネットワーク「ながさきエコネット」登録メンバー数及びアダプトプログラム参加者数を合算して計上

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

(1) 成果指標の「環境保全活動団体のメンバー数」について、メンバー数が増えることが、環境行動を実践していることにはつながらないので、メンバー数だけではなく、団体の活動内容や実績を踏まえて評価すべきである。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

(1) 近年、「ゼロカーボンシティ」や「サステナブル」、「SDGs」という新しいキーワードが出てきたが、元々の「ながさきエコライフ」や「エコライフフェスタ」、「エコライフウィーク」、「エコネット」、「サステナプラザながさき」、「サステナスクール」、国の「COOL CHOICE」など、非常にキーワードが多すぎる。一般の市民からすると、どこが何の事業をやっているかわからないと思うので、この際統一的なわかりやすいキーワードを作ってみてはどうか。

- (2) 環境教育・学習を推進するうえで、リーダーを育成して、そこから広げていくというスキームだと思うが、リーダー以外は後から付いていくだけで主体性が生まれにくいような気がするので、リーダーという呼び名が適切かも含め、横の広がりを作るための方策を検討していただきたい。
- (3) GIGA スクール構想により、小学生は一人一台タブレットを持っていると思うので、ペーパーレスの観点からも、タブレットを使って、環境に関する情報のアプローチや外部の環境団体が環境教育を行う仕組みができないか。